



プレーパーク レポート

第1号

2021年12月

小鹿野町



小鹿野町でも
プレーパークが
スタートしました！

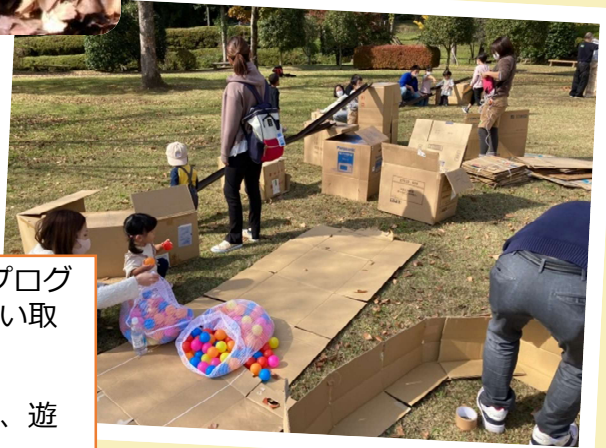
プレーパークとは？

2021年度から始まった「プレーパーク」とは、決められた遊びのプログラムがなく、子どもを中心にみんなで遊びや場を手づくりする楽しい取り組みです。

子どもが自分の意志で自由にのびのびと遊ぶことを大切にしており、遊びを見守り、場を支える「プレーリーダー」がいる遊び場です。

7月のプレ開催では体験会として「水遊び」、10月「段ボールで遊ぼう」、11月「木で遊ぼう」が行われました。

これからも町民のみなさんと行政で力を合わせ、小鹿野町のプレーパークが楽しい遊び場として発展するようにともに協働していきましょう。



プレーリーダー養成講座

現在、プレーパークの開催には子どもの遊び場づくりの専門家であるプレーリーダーの協力を得て開催しています。今後、小鹿野町では町独自にプレーリーダーを養成していく予定です。今年度もプレーリーダー養成講座の導入プログラムが開講されています。関心がある方であればどなたでも受講可能です。ぜひ、ご参加ください。



10月の段ボールで遊ぼうは雨天のため若者センターのホールを使つての開催でした。

初めは親子単位で秘密基地づくりで遊んでいましたが、後半はそれぞれの秘密基地も連結させたカラーボール転がしのコースづくりへと発展。子どもも大人もアイデアと力を出し合つて楽しい空間となっていました。

このように遊びを通して人がつながるきっかけづくりはプレーパークの一つの機能であり、子育てしやすい有機的な地域のネットワークをつくる一助になります。

遊びの様子



11月の木で遊ぼうでは、間伐材や木材を使った自由工作、枯れ枝と毛糸でオーナメントづくり、焼きゴテでおがニャッピーの焼き印遊びなどで楽しみました。

今後のプレーパークで使用するノコギリ用の作業台づくりでは、小学生の男の子たちが楽しみながら協力してくれました。

また、この日は父親の参加も多く、木工を楽しむ我が子や他所の子どもをサポートをする姿が見られました。

子どもも大人も楽しく遊びながら、みんなで遊び場をつくり支えることにもつながっており、地域主体の遊び場となっていました。



7月の体験会では水遊びの環境をみんなでつくりました。遊びに来た大人たちを中心に竹を井形に組んで紐で結びプールの枠を作りました。

シートをかけ、あとは水を溜めればプールは完成だったのですが、先に作ったミストでホースが使われていました。大人の考えではミストを止めてホースでプールに水を溜めることを想像しますが、プレーリーダーの呼びかけもあり、子どもたちはバケツやペットボトルを手に持ち蛇口からのバケツリレーが始まりました。大人たちも他の用途で持ってきていた大きなクリアケースなどに水を溜めて子どもたちの後に続きました。

「水汲み」自体が子どもにとって楽しい遊びとなっており、遊びを手作りするプレーパークならではの光景でした。



ハイライト



枯れ枝と毛糸でオーナメントづくりは、はじめは大人が東屋でおしゃべりしながら作っていました。手仕事しながらのおしゃべりはとても楽しそうな雰囲気でした。

プレーパークは子どもだけが遊ぶ場ではありません。大人も遊び心を解放し、自分らしく過ごせることを大切にしています。何故なら、子どもが自由に楽しく遊ぶためには親や地域の大人が遊んでいることが一番だからです。

その後、大人たちの作ったオーナメントは子どもたちを触発し、次々に素敵な飾りができるきっかけとなっていました。